

# 第1回 日野市保育の質ガイドライン策定委員会 —要点録—

## 1 日時場所等

- (1) 日 時 令和5年10月24日(火) 午後2時00分～午後4時00分
- (2) 場 所 日野市役所本庁舎5階502会議室
- (3) 出席委員 井口眞美委員長、野原久代副委員長、佐藤道枝副委員長、根津正孝委員、  
上原直実委員、佐々木滋委員 ※大澤朋子氏はオブザーバーとして参加
- (4) 欠席委員 なし
- (5) 事務局 子ども部保育課整備調整係 飯野成路、森航太、小野早苗

## 2 要点録

### 1 ご挨拶 日野市子ども部長

- ・日野市では、昨今の保育園での不適切保育を受け、保育の質の維持・向上について、保育現場の皆さまと真剣に考える機会が必要である、と考えております。
- ・そこで、日野市として、保育の質ガイドラインの策定を、皆さまと一緒に考え、作っていきたいと考え、主要事業として位置づけさせてもらっています。
- ・ガイドライン本体の完成が目的ではなく、皆さまと一緒に、保育の質について考える機会を継続して作っていくことを狙いとしています。
- ・長丁場になりご負担等もおかけするかとは思いますが、どうかよろしく申し上げます。

### 2 委嘱状交付

各委員に委嘱状を交付。

### 3 委員紹介

各委員自己紹介。オブザーバーとして大澤朋子氏も参加する旨、周知。

### 4 事務局紹介

事務局自己紹介。委員名簿にある川井、島崎は別業務の都合により欠席とさせていただきます。

本会議は、日野市保育の質ガイドライン策定委員会設置要綱第11条第1項により、原則として公開とさせていただきます。

### 5 委員長・副委員長選任

日野市保育の質ガイドライン策定委員会の委員長の選任については、要綱第5条第1項に、「委員の互選によりこれを定める」とされ、事務局に一任するとの意見が出された。

事務局として委員長に学識経験委員の井口眞美氏を推薦し、委員より賛同いただく。

副委員長は委員長より野原久代氏及び佐藤道枝氏を推薦し、委員より賛同いただく。

### 6 事務局からの説明

資料3「日野市保育の質ガイドライン策定説明資料」について説明。

### 7 講義～保育士に今求められていること～

井口眞美委員長より、「～保育士に今求められていること～」のテーマで講義。

## 8 意見交換～ガイドラインで大切にしたいこと～

(根津委員)

昨年度日野市で不適切保育があったと公表されたが、自分の保育園でも不適切保育が起こる可能性はあると思う。昔は許されていたことも今では不適切な保育だったと気づくこともある。

保育士を集めるのにも苦労する中で、不適切な保育が起こる原因かなとも思う。

(井口委員)

日野市において保育の質ガイドラインを作る場合には、不適切保育に視点を強く置いたほうがいいのか。

(根津委員)

不適切保育だけではどうかと思う。どの視点からのガイドラインにするのかにもよると思う。保育士の方の研修や保護者の方も目にしたときに良い保育してるねとわかってもらえるようなガイドラインにしていきたい。

(野原委員)

なぜ保育士を守るかと話をしたことがあるときに、コロナの時期に幼稚園は休みなのに保育園は運営しなければならないとなった時に職員の不満がたまっており、保育園と幼稚園の差を見せつけられたような気がした。

日野市の他の保育園で不適切保育が公表された際に、自分もそうなんじゃないかとか、今までやってきた保育が違うのではないかと職員が疲弊しており、保育士を続ける自信がないというような声も出てきているくらい。

不適切な保育は保育園だけではなく、家庭でも起きていることでもある。

私は子どもの満足度と先生の満足度を一致させることが保育の質だと思っている。

人間誰しもが失敗するし、先生も失敗するし、園長先生も失敗する。なのであまり完璧を求めなくていいと思う。自分たちでその失敗に気づいて、自分たちで直していくような環境が基本的な保育の質だと考える。

ガイドラインにおける質の向上とは、完璧でないことを容認すべき。こうでなければというガイドラインではなく、事例等をたくさん集めて、保育の安心材料となるような、気づきが求められるようなガイドラインになればいいなと考えている。あまり堅苦しくないようなガイドラインにしたい。

(佐藤委員)

当園でも不適切保育のテーマで研修等もしているが、究極はお互いが気軽に言い合える職場作りや環境作りが必要なんだと考える。

ベテランの保育士さんの中には、自分の今までしてきた保育はどうだったのだろうか悩んでいるところを見たこともある。例えば、嫌いなものを食べてもらいたいけど、無理やり食べさせてはいけないし葛藤したりする。

子育ても悩みながら子育てする。保育についても指針等はあるが、仮に間違ってしまったら、自分なりに考えて、これって不適切保育なんじゃないかなと考えることが大事。

働く職員が楽しんで保育ができる環境が大事で、それが子どもにとっても保護者にとっても大切。そのため、職員が悩んでいることを払拭できるようなガイドラインになればいいなと思う。

(井口委員)

昨今の不適切保育において、実践女子大の学生からも、縮こまってしまっていて楽しく出勤できていないというような声も聞いたことがある。

(野原委員)

先ほど職員の疲弊という話をしたが、その一つの原因として、子どもにケガをさせるということについて先生たちは怖っているというのがある。ケガをさせない保育というのはないとは思いますが、子どもにケガをさせるという恐怖のほうが今の先生たちには増えているような気がする。行動を狭めることも不適切な保育だと思うが、そうせざるを得ない保育園に対する社会的な認知が非常に厳しくなっている。社会が無傷で子どもを返せという風潮である気がしているが、そこを恐れていたら保育は絶対にできないし、保護者の要望ばかり聞いていくことはできない。

ガイドラインにおいても、例えば保育の中で多少のケガをすることは保育にとって必要なことだと大手をふるって語るなくてはならないところもあるのではないかな。

保育はサービスと言う考え方でなく、福祉であると認識してもらいたいと考えている。

そのため、ケガをするということはあるけれども、保育においては何を育てなければならないのかということが明確になっていることが大事だと思う。

保育の気づきとしてのガイドラインであってほしいと思う。

(井口委員)

気づきってというのは大事なキーワードだと思う。気づきにおいてやはり職員同士が話し合っただけで気づける場づくりができたらいいなと思う。

(上原委員)

チェックリストに書かれていることのみに従って保育をしていたら育たないよね、というような話も職員から聞こえてきたりする。

保育者同士がお互いに褒めあえるような関係であると良い。そういうことから気づけるようなこともあるかと思う。

そんな良い事例がたくさん載ったガイドラインになればいいなと思う。

(佐藤委員)

事例についても、いろんな保育園の、いろんな保育者の年齢の事例が乗っていればより学びになるかと思う。

(根津委員)

その状況、状況で保育士にとって必要なことだと考えて行動していることが、その場面だけを見た人が不適切保育じゃないのかと言われることがある。

(野原委員)

保育士は線で保育をしているのに、点だけを見て物を言われてしまう時がある。

例えば、危険があるときにパッと手をつかんだ時に、親御さんからはその瞬間だけを見て声が大きくてなんだあの人はと思われてしまう時がある。

保育士にとっては必要なことだと考えて行動しているし、子どもにとっても泣くことも怒ることも大事だと思う。

(佐藤委員)

保育士が自信をもって保育ができるようになるガイドラインになればいいなと思う。

(井口委員)

コラムの中に園長先生はこう思っているよとか、園長先生は完璧じゃないのよというのを入れるのもいいかもしれない。

(根津委員)

他市のガイドラインと同じような感じになってしまってもとも思う。

(野原委員)

「保育の質ガイドライン」という名称でなければいけないのか。

日野市の特徴を表せるようなタイトルになればいいなと思う。

(井口委員)

チェックリスト等はQRコード等を添付して、データ上で何回でもチェックできるようなものにしてもらいたい。

(事務局)

ガイドラインにおいてはこれはダメですというよりは、ガイドラインとして保育をするうえでの道しるべになるようなものができたらよいなと思うところである。

不適切保育に関しては、このガイドラインでどこまでお示しできるのか、また別に示していったほうがいいのか等については事務局の方でも検討させてもらえればと思う。

(佐々木委員)

ガイドラインの冊子で更に知りたいと思うものなどを QR コードでアクセスしていただき、その閲覧状況を確認することで、よく見られているページが確認でき、あまり見られていないページは次の見直しの時に検討する材料になるのではないかなと思う。

## 9 その他

【次回（第2回委員会）について】

令和5年11月28日（火） 14時～16時 日野市役所本庁舎5階 503会議室

内容（予定）

- ・保育に関する国・日野市等の動き等
- ・事例集(案)の説明・意見交換